



中学校の教室での授業風景を後ろから撮った画像



上のタイトルと同じ文を生成AIに入力すると、下の画像を作ってくれました。

ニセモノ



これはAIが作った画像。つまり、架空の授業風景です。この世には存在しません。ちなみに、この下は、ウチの3年生のホンモノの生徒と先生による数学の授業です。

ホンモノ



最近「AIはどれだ?」というクイズがあるほど見分けることが難しく、AIの「能力」の向上は驚異的です。もちろん、画像の作成のみならず、文書作成や計算、動画や作曲など、たくさんの分野で人間の能力をはるかに超えているのが現状です。

今後もさらなる進化が予想されることから、未来を生きる子どもたちのため、生成AIに関連させた学びが注目されるようになりました。文科省からは、すでにガイドラインが提示されています(右上図)。

学校現場においてもAIを授業準備や日常業務に活用している先生方が増えています。ただし、あくまで

3. 学校現場において押さえておくべきポイント	
教職員が校務で活用する場面 	<ul style="list-style-type: none"> 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用
児童生徒が学習活動で活用する場面 	<ul style="list-style-type: none"> 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたリ往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める
教育委員会等が押さえておくべきポイント 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要
共通して押さえておくべきポイント 	<ul style="list-style-type: none"> 安全性を考慮した適正利用 情報セキュリティの確保 個人情報・プライバシー・著作権の保護 公平性の確保 透明性の確保、関係者への説明責任

「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】(令和6年12月26日公表)」より抜粋

も補助的な活用です。いかなる分野においても、AIは、人間の目で、頭で、言葉で、本質を確かめてから「補助的に」活用することが大切であり、推奨されています。

下の2つ記事は、氷山の一角であり、おそらく全国・全世界にて似たようなことが起こっているのでしょう。

「人の仕事や役割はAIに取って代わる」と言われていた時代が本当に来ました。私たちは、AIに使われてしまう人ではなく、賢く使いこなす人を育成しなければなりません。これからの社会のデジタル化、特に生成AIの利活用に対して目を背けることなく、子どもたちの未来のために鋭意研鑽に取り組んでいきます。

世の中のデジタル化やAIの活用について、お家でも時々、話題にしてみてください。想像以上にお子さんの方が詳しいかもしれません…。

ある小学生の母は言う。

「子どもが1人で部屋にこもっているのに、部屋から喋り声が聞こえる。こっそり覗くと、アレクサに宿題の答えを聞いて写していたんです。最近の子どもが生成AIに宿題をさせるという話は知っていたけれど、やっぱりやるんだと…。その家では、アレクサを片付けてしまうかどうか悩み中だそうだ。

小中学校にも、生成AIのコピペを提出する子どもが出てきているとある先生は言う。「ChatGPTの文章を手書きで写しても分かっちゃうのに、なぜそのまま出してくるのか…。悪いことはバレるというのを早めに分かってもらうことが大事かと思ひ、毎回指摘しています」。

小中学校の教員には生成AIについて十分理解、指導できていない教員もいると言い、先生によって対応がまちまちな点が懸念点だという。

(「東洋経済オンライン」より)

「これじゃ、無料の宿題代行業者が現れたようなものだ」東京都内の私立中高一貫校の英語科教諭(56)はため息をついた。昨年度の冬休み、中1の生徒に英語で日記を書く宿題を出したところ、現在完了形など教えていない英文法が使われ、ミスもない「素晴らしい英文」の日記が、何人もの生徒から提出されてきたのだ。

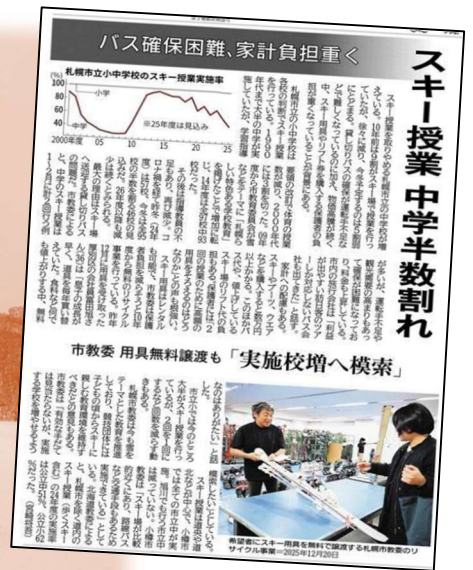
生成AI(人工知能)が使われたことは疑いようもない。この教諭は「宿題は、英語を使う習慣を身につけ、文法の復習をしてほしいから出してきた。間違いを指摘されて学ぶことは言語習得には不可欠。生成AIが示す『正解』の丸写しから得るものはない」と嘆く。

生成AIへの依存を強める生徒たちの実態を前に、この学校では春休みから英作文の宿題を廃止した。

国立情報学研究所の佐藤一郎教授(情報学)は「学習に後ろ向きな生徒は生成AIに頼り切りになり、思考力や創造力の育成が阻害される。学力格差が広がる恐れがある」と警鐘を鳴らす。(「読売新聞オンライン」より)

スキー授業が始まりました！

ご家庭での準備等へのご協力、
本当にありがとうございます！



3学期が始まり、保体科ではウィンタースポーツの代名詞でもあるスキー実技の授業が始まりました。

今シーズンの羽幌町民スキー場「びゅう」は、雪の少なさから予定よりも遅いオープンになりました。「冬休み中にたくさん練習できなかった…」と残念がる子どもたちの声もあったようです。私も授業のお手伝いで出向きましたが、年々足腰がツラくなっています。そんな中でも、子どもたちの楽しそうに取り組む姿を見ると、元体育教師として嬉しさを感じる次第です。

ただし、ここ最近のスキー授業に対しては課題の声が聞こえるようになりました。北海道新聞の1月20日の地方版(札幌)に、次のような記事がありました。

【以下、記事の要約】

- 札幌市立小中学校では、スキー授業の実施率が年々低下し、中学校では半数を下回る状況となっている。
- 主な理由として、バスの確保が困難、保護者の家計負担が増加、教員の引率体制や安全管理の負担がある。
- 小学校では比較的实施が維持されているが、中学校では授業時数や行事の制約もあり、実施を見送る学校が増えている。
- 札幌市教育委員会は、スキー用具の無料貸し出し(リサイクル事業)などにより、様々な負担軽減を考慮しながら実施しやすい方法を検討中。
- スキー授業は体力向上や地域性を生かした学習として意義があるが、学校・家庭双方の負担増が継続の壁となっている。

「子ども身体の成長が早く、毎年買い替えるのが大変」「うちの子はボードをやっているのだから、新たにスキーを購入しなくてもいい」と、本校でもこのような保護者からの声を耳にすることがありました。各家庭においては、多かれ少なかれ思うところがありながらも、学校のスキー授業にご協力いただき、心から感謝しています。本当にありがとうございます。

本校はスキー授業に関して少しずつ変更しています。感染症流行の防止をはじめ授業時間数の課題などを解消すべく、3年生のみ終日の日程で1回限りのスキー授業にしました。また、人数が少なくなったことに加え安全対策上、スキー置き場を1階の玄関に移動しました。

なお、例えば、この先使わなくなったスキーやストック、ブーツなどを「おさがり」として回収し、必要に応じて貸し出すことができると、ご家庭の経済的な負担軽減に役立つかもしれません。他にもよい方策があれば、保護者の皆さんからの知恵をお借りしながら、いろいろと変更を重ねつつも、持続可能なスキー授業の在り方について検討していきます。

合格 ガンバレ！3年生 入試が始まった～！

私立高校の入学試験が始まりました。来月には公立高校の推薦入試に、3月には一般入試に挑みます。これからの3年生には、義務教育のフィナーレを迎えるのと並行して、自身の進学先へのステップを踏むための入念な準備が求められます。輝かしい15歳の春のために。

後輩たちも、地域の皆さんも、そして、先生方もみんなが応援しています。月並みな言葉ですが…ガンバって！



1月の校長室前掲示板

